

水 泥 新 聞

第四八号
2018年平成30年12月5日



編集

フジクリーン工業株式会社

〒四六四・八六二二

愛知県名古屋市中種区今池

四丁目1番4号

TEL

〇五二・七三三・〇三二五



設立から10年を迎えた フジクリーン・ オーストラリア社の歩み

フジクリーンがオーストラリアに進出して10年。現地法人設立の苦労や、海外市場参入にあたっての努力など、その当時を知る社員たちの声と共に紹介する。



2006年~
新たに
海外事業部を発足

2006年1月、アメリカとオーストラリアへの進出を視野に入れ、海外事業部



▲フジクリーン・オーストラリア社の現社屋とスタッフ一同

が発足した。しかし、競合他社の多いアメリカは、最初のターゲットとしては負担が大きいと断念。当時、ビジネスパートナーとして話を進めていた現地企業に任せ、後方支援に徹することにしました。一方、国民の環境意識が高く、浄化槽の制度が整っているオーストラリアは、初めての海外進出に最も適しているかと判断。同時に、現地の土壌コンサルタントからの誘いもあり、まずは、現地の情報収集を始めた。

2008年~
現地法人を設立し、
オーストラリア認証を取得

2008年1月11日、念願の現地法人フジクリーン・オーストラリア社を設立。しかし、現地の情報が集まるにつれ、不安が深まる一面もあった。その原因の一つが、オーストラリア認証だ。取得のため、実証試験に挑戦したが、1・2回目は失敗に終わった。3度目の挑戦となる2009年、見事2つの製品の認証を取得することに成功。しかし、喜びも束の間、現地での両機種の評判が思わしくない。そこで、現地専用機種としてCE1500EX型を開発し、2010年には最高レベルである「高度処理クラス」の認証を取得。フジクリーンの浄化槽が着実に売り上げを伸ばしていったのも、その頃だった。



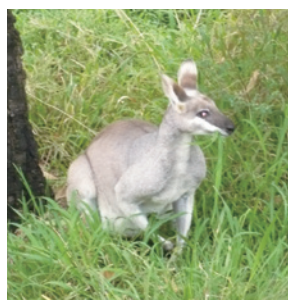
▲CE1500EX型を積み込んだ大型トラック

2011年~
現地での組み立てを
実現し、コストダウン

設立当時は、日本から完成品を輸入していたため、高い輸送費がネックだった。そこで、FRPを扱う現地の製造会社に、CE1500EX型のタンクや仕切板の製造を依頼。その他の細かい部材は日本やタイから仕入れ、現地で組み立てるといふスタイルを確立し、大幅なコストダウンを実現した。

現在
計6名のスタッフが
現地で活躍

設立時は、ケアンズにある事務所の一角を間借りして、オーストラリア人の営業1名と事務員1名、日本人スタッフ2名が勤務。現在は、事務所をゴールドコーストに移し、6名のスタッフがオーストラリア全土を販路に活躍している。



▲浄化槽の搬入現場に現れたカンガルー

フジクリーン・オーストラリア社を支える社員たち

人口は約2、460万人、下水普及率は約92%(2016年現在 OECD 調べ)と、決して大きな市場とは言えないオーストラリア。しかし、どの業界においても海外参入企業が多く、国籍に関係なく品質やサービスが優れていけば受け入れてもらえる。そんな現地市場を果敢に開拓する社員たちの声を聞いた。

当時を知る社員の声

海外事業部発足当時、豪州全土の電話帳に掲載されている設備業者や管材店に片っ端から電話をかけ、住所やメールアドレスを教えてもらい、資料を送付しました。関心を寄せてくれたのは1割程度でしたが、その相手先を訪問するなど、地道な営業活動を継続しました。2007年6月には、当時の開発部長と共に、ケアンズからブリスベン



▲ 現地法人設立に向けた打ち合わせ風景

にあっという間に丸4年が経過。こちらでは、営業や販売対応だけでなく、技術対応や製造委託工場の管理、さらには経営管理と、ほぼ全ての業務に関わっています。最初は慣れない仕事に戸惑いもしましたが、現地豪州スタッフや

駐在員の声



海外事業部 欧州担当部長 音羽利郎

までの1600km以上を車で走り、10か所余りの販社候補を歴訪したのは、今でも貴重な経験です。

本社のさまざまな部署の方と連携することで、課題を一つずつクリアしてきました。

日本との大きな違いは、施主自ら浄化槽について調べ、不明な点や疑問点を、メーカーに直接問い合わせをすることです。ゴールドコーストの事務所にも連日、電話やメールで多くの問い合わせをいただくため、丁寧な対応を心がけ、受注につながるよう態勢を整えています。

最近では、大型浄化槽の施工指導のため、現地の人でも行ったことのないであろう場所に出向くことが多々あります。どこも自然が美しく、素晴らしい場所ばかりだったので印象的です。この様な土地で仕事ができることを、本当に誇りに思います。

私はブリスベンに住んでいるのですが、緑豊かな公園をはじめ気持ちのいい場所が点在しています。週末には各地でマーケットが開催されるなど、活気に満ちたとても魅力的な街です。



海外事業部 係長 北井隼也

現地スタッフが視察来日

2018年11月中旬、フジクリーン・オーストラリア社から社員2名と取引先の3名様が来日。那須・三好の2工場や大型浄化槽の搬入現場を見学し、日本の浄化槽事情への考察を深めた。参加者たちに、視察内容やフジクリーン浄化槽の印象についてコメントをいただいた。

視察団の声

FC's factory is very clean, automated, organized, and has a good technology. We didn't obviously get speak to worker, but we could understand their heart is positive and having fun. We are also impressed by a lot of facilities and robots in factory. In Australia, we make everything by hand. It's unique that nobody else has designed treatment product like Fujiclean. Compared with all of Australian competitor, Fujiclean product is very compact. So, it integrates with the garden or other land. We challenge to recommend them in Australia from now on.



▲ オーストラリアからの視察団一同

フジクリーンの工場はとてもキレイで、自動化・組織化もされ、素晴らしい技術を持っています。工場の方たちも意欲的で、楽しんでいる様子が伝わりました。また、オーストラリアでは製品のほとんどが手作りなので、工場の設備や機械が印象的でした。フジクリーンの製品は他社にないとてもユニークな設計で、他社と比べてもコンパクトなので庭や地面と調和しやすいです。これからもオーストラリアでフジクリーン浄化槽を推奨していきたいです。

コラム

海外事業部の活動

現在、海外事業部には、11名の社員が所属。世界中の顧客との折衝、海外各地での営業活動、海外子会社のサポートなど、さまざまな役割を果たしている。近年では、ベトナムやミャンマーなど東南アジアでの営業活動にも注力。公共施設や集合住宅において、大型浄化槽を導入した恒久的な下水処理整備を目指している。ほかにも、国際水協会(IWA: International Water Association)世界会議・展示会への出展を通して、世界各地に情報発信している。



▲ 2016年には、ドイツ・ミュンヘンで開催された「IFAT2016」(国際上下水処理・廃棄物処理・再資源化技術専門見本市)に出展。最先端の環境技術が集結する最大級の展示会でも、高い関心を集めた。